

## ダーウィン訪問について

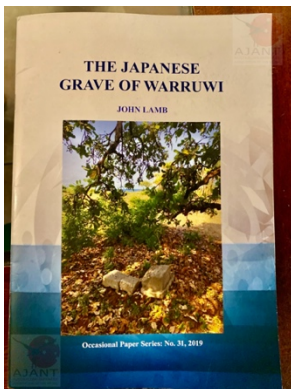
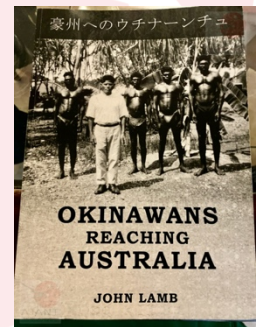


ダーウィンに来た理由は、11月2日の歴史セミナーの為ですが、もう10年以上前から続けている、北豪州への日本人移民研究関係について資料を集めるためにも来ました。

私が初めて書いた本、「沈黙の真珠」はAJANT会員のサポートを頂き2015年11月にダーウィンで出版記念会をしました。その後、その本はNT政府主席大臣の歴史本の賞の最終的候補に挙げられました。

内容は最初の移民から太平洋戦争まで（1891年から1941年まで）の記録がある限りのNTで亡くなったすべての日本人の事やその関係の歴史、特に真珠貝採取業務、について述べています。

今年出版された「豪州へのウチナンチュ」と言う二番目の本は、戦前時代にも言及していますが、戦後の事の方が中心です。特に、本州からの日本人の代りに沖縄出身者が選ばれるようになった理由、そして北豪州のいろいろな場所の真珠採貝の成功の度合いを検討するものです。



そのほか、最近、NT歴史協会は私の「ウォルウィでの日本人の墓」という論文を小冊子として出版しています。この話は現地のウォルウィ（サウス・ゴルブーン島）の地方公務員がAJANTに倒れている墓石の写真を送り、更にAJANTがそのお墓の人物の身元確認を求めて私に送った事から始まりました。私にできるかどうか自信はなかったのですが、私の別の研究の歴史の出来事と人との幸運な関連が続き、大変興味深いお話がわかってきたのです。

上記の本2冊を読むと北豪州の発達に果たした日本人の役割のいろいろな詳しい事情分かります。小冊子を読むと、なぜこの研究は私の避けられない運命のようなものとなったかお分かりいただけると思います。

ジョン・ラム